最初で最後の「フィクション」　～若い先生方へのエール～

私は、三豊で生まれ育った“先輩”からの「シン・メッセージ」として、三豊市内の先生方に【YAHHO 通信】を発信しています。市教委からの指導ではなく、個人のつぶやき「SNS（Shinichi Networking Service）」です。そんな中で、一度だけ「フィクション」作品を掲載したことがあります。私の３８年間の教員生活を想起しながら、そして教育問題に対する私の意見を盛り込みながら、エッセー風に綴ってみました。６５歳の“初挑戦”でした。

なごり雪　～卒業前夜～

３月１４日午後７時、海斗は誰もいない６年１組の教室にいた。明日の卒業式を前に、掲示物はすべてはがしていたが、殺風景な教室でのお別れは味気がないので、この１年間発行してきた学級通信『大海』を背面の掲示板に貼り付けた。そして、最終号である最後の１枚を、子どもたち一人一人の机の上に配っていった。

「こうして夜の教室で明日の準備をするのも、今日が最後だなあ。この１年いろんなことがあったが、我ながらよく頑張った！」。教卓の前で目を閉じて、１年前の春を思い出していた。

内海海斗は、新採から４年を終えてこの瀬戸小学校に異動してきた。海のように大きく育ってほしいと「海斗」と名付けられたが、高校のときに家庭の事情で名字が変わり、「海」が重なってしまった。でも、海斗は気に入っていた。最初のあいさつでも「瀬戸小の内海です。続けると瀬戸内海になります」と海をアピールした。先輩から「第一印象を与えるのは一度きりだよ」と言われていたので、ウケを狙ってみたが、見事にスベってしまった。

それ以後も、苦戦の連続だった。前年度６年担任をしていたので多少の自信はあったが、その経験を生かしきれなかった。前任校とやり方がまったく違うのである。「前の学校は…」は禁句だと思い、ここでのやり方に慣れようとしたものの、職員会では「前年どおりで…」と詳しく説明されることがなく、戸惑うことも多かった。

そんな中で、学級通信の発行だけは譲れなかった。この学校では、学級通信を出している先生がいなかったので、白い目で見られそうな気がして嫌だった。でも、通信は学級経営の柱に位置付けていたので、校長先生に相談に行った。すると「通信を出す人が熱心な先生だと思っている保護者がいるので、それを気にするあまり“出る杭”を打とうとする先生がいるかもしれないけど、それぞれの先生のやり方があるから気にする必要はない。内海先生の思うようにやったらいいから。それに、やりたいことをやれるのは若いうちだけだからね」と背中を押された。

卒業文集も同じだった。時を同じくしてネットに上がっていた「卒業文集廃止の動き」の記事が目に留まった。そこには、教員の働き方改革の一環と書かれている。たしかに、卒業文集制作にかかる業務は大変かもしれないが、子どもにとっては、思い出がいっぱい詰まった宝物になる。教員の業務を減らすのではなく、子どもたちのために使う時間を確保することが目的なのに、本末転倒である。そんな思いもあって、“子どもファースト”を意識し、卒業文集の作成に踏み切った。そして、先ほど配った最後の通信とともに、子どもたちの机の上に置いていった。小学校生活最後の日、登校してきた子どもたちがそれらを見つけると、笑顔になるだろう。それが卒業式への意識付けになってくれるかもしれない・・・。そんな期待も込めながら、卒業前夜の“儀式”を楽しんでいた。

ふと窓の外を見ると、雪が舞っていた。♪ 汽車を待つ君の横で僕は時計を気にしてる　季節外れの雪が降ってる～、『なごり雪』（イルカ）の歌が浮かんできた。高校２年の文化祭で歌った曲である。でも、当時はあまりいい思い出はなかった。名字が変わったことで、友達にいじられるようになったからである。３年になっても、暗い気持ちのままだった。そんなとき、担任の先生からもらった言葉がある。「春は、自分の心の中にあるんだよ！！」。　他人にどう思われようと、自分らしく生きていこう。去年より強くなった自分を見せていこうと、前向きに思えるようになった。『なごり雪』の最後、♪ 今　春が来て君はきれいになった　去年よりずっときれいになった～は、自分自身の成長に向けてのエールのように感じた。10 年前のことが、つい昨日のことのように思い出された。

気がつくと、時計は８時を過ぎていた。あわてて、スマホで音楽を流しながら“最後の言葉”の練習を始めた。「昨夜は雪が降りました。君たちとの別れを惜しむ“なごり雪”でした。しかし、今日は海よりも青い色をした空が広がっています。その空の下で最後に贈る言葉は**【井の中の蛙大海を知らず】**です。これは、小さな井戸の中に住む蛙は、大きな海があることを知らないことから、ものの見方や考え方が狭いという意味で使われています。しかしこの言葉には続きがあります。**【井の中の蛙大海を知らず。されど空の深さを知る】**。狭い世界で自分の道を突き詰めたからこそ、深いところまで知ることもできるのです。でも、井戸から見えるわずかなすき間から空の深さや青さを知り、それに近づこうと上っていけば、だんだんと空の大きさに気付き、最後には 360 度の果てしない空に出会うこともできます。君たちも、瀬戸内海から太平洋へと、そして世界へと羽ばたいていってください。学級通信のタイトルを『大海』にしたのも、そんな願いを込めました」。『海の声』（桐谷健太）が聞こえてくる。

♪ 海の声よ　風の声よ　空の声よ　太陽の声よ　川の声よ　山の声よ　僕の声を　乗せてゆけ～

歌が終わると、海斗はそっと手を合わせ、「ホワイトデーに白い雪を降らせてくれるなんて、憎い演出をありがとうございます。明日も、海よりも青く、海よりも広い、大空が広がりますように・・・」とつぶやき、深々と頭を下げた。そして、自身のテーマソングである『カイト』（嵐）を口ずさみながら、教室を出て行った。

♪ 風が吹けば　歌が流れる　口ずさもう　彼方へ向けて　君の夢よ　叶えと願う　溢れ出す　ラル ラリ ラ ～

雪は、もうすっかり止んでいた。きっと明日、海斗の夢は叶うだろう・・・。